

世界各地で、プラスチック汚染が問題になっています。ヨーロッパでは、小売りの現場で先進的な取り組みがみられます。オランダのオーガニックスーパー・エコプラザでは、プラスチック容器の代わりにガラスや金属、バイオ素材を使用した商品のみを陳列する、実験的な店舗の運営を始めました。また、イギリスの大手スーパー・モリソンズでは、精肉・鮮魚カウンターで商品を購入する際、容器を持参すると、同社のお買い物ポイントを付与すると発表しました。同社では、現在販売に使用しているプラスチックトレイを2019年までに廃止し、生分解性のプラスチック容器に代替するそうです。

日本でも昔、お酒などの量り売りは一般的でした。しかし最近では、品質管理や衛生上の理由からか、ほとんど見られなくなっていました。ここにきて、ある酒類メーカーが、焼酎の量り売りをしていると聞きつけ、早速、当社のアナリストが、九州のとある町の酒屋さんを訪問、実際に買って来て、店主にヒアリングをしてきました。空の容器を持参すれば、必要な分だけ詰めてくれるのです。容器包装が不要なため、とても安く、新鮮でおいしいうちに飲みきることができ、容器のごみを減らすこともできる、いいことづくめの買い物でした。さらに、気に入った容器に詰めてもらえば、その人だけの特別なお酒となるでしょう。リピーターや口コミで利用者が増え続け、想定を上回る売り上げがあるそうです。今後はビールの量り売りもできないかと、考えているそうです。いずれ醤油や酢、油などの量り売りも出てくるかもしれませんね。

日本では近年、ペットボトル入りのコーヒーやノンアルコール飲料が販売されるなど、手軽で便利なペットボトルの利用がむしろ増える傾向にあります。日本のペットボトルのリサイクル率は約8割で、アメリカが約2割、欧州が約4割であることと比べると、非常に高い水準にあります。回収されたものの半分は、中国や香港などへ輸出されていましたが、2018年1月、中国が廃プラスチックの輸入を突然中止しました。今後、行き場を失った廃プラスチックはどこへ行くのでしょうか。もはやリサイクルを当てにして、使用を増やし続けることはできません。これからは、詰め替え容器を持って買い物に行く、マイボトル、マイパック（パッケージ）というライフスタイルが環境問題改善の最前線となるのではないのでしょうか。昔ながらの量り売りに戻ることが、環境配慮の新しいスタイルになるということは、まさしく「古きをたずね、新しきを知る」ですね。量り売りを始めたこの酒類メーカーは、ESGの観点からも高く評価できます。